

2023 **7.5** (水) 12:10 ~ 12:50
 12:10-12:15 ◆演者紹介
 12:15-12:40 ◆プレゼン
 12:40-12:50 ◆質疑応答
 オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/join/7Wn_ADx0VcvVTMy2h3_C6dx_g
 【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

様々なライフステージでの健康づくりとその影響を考える

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



3 本邦の健康づくりの現状
 4 海外の健康づくりの現状
 8 高齢者の健康づくりの現状
 11 高齢者の健康づくりの現状

Key Words
 健康づくり
 メンタルヘルス ライフステージ
 幸福長寿

岸本 裕歩 准教授
 基幹教育院 自然科学理論系部門

大阪府枚方市出身。2010年に九州大学大学院人間環境学府にて博士(人間環境学府)、2017年には同大学院医学研究院にて博士(医学)を取得。その後同年4月より現職。九州大学の学部生および福岡県糸島市を対象とした疫学コホートの主任研究者を務めている。特に、糸島市の疫学コホート (Itoshima Felix Study) では、要介護化の抑制に関する追跡調査を継続しながら、ICTやIoTを用いた運動・健康づくり事業(糸島ふれあいラボ)を展開中。

このセミナーでは、人生のいろいろな時期で出会う健康の問題について取り上げたいと思っています。年齢を重ねるとともに、身体が変わってくることをどう受け止め、楽しく過ごすためにどんな工夫ができるのか考えます。若者は心身の機能が人生の中で最も高いと考えられていますが、心の健康に悩む大学生は多く、メンタルヘルスと上手に付き合うことが大学生活を送る上で重要になります。人々が幸せに暮らすために、私たちは健康を守り、周りの人々にも良い影響を与える方法を考えています。

2023 **7.19** (水) 12:10 ~ 12:50
 12:10-12:15 ◆演者紹介
 12:15-12:40 ◆プレゼン
 12:40-12:50 ◆質疑応答
 オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/join/WN_rr2LmLATTTh-wFy3_dUtWaQ
 【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

授業における聴覚障害のある児童・生徒・学生への教育・支援のあり方

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



3 本邦の健康づくりの現状
 4 海外の健康づくりの現状
 10 高齢者の健康づくりの現状
 16 高齢者の健康づくりの現状
 17 高齢者の健康づくりの現状

Key Words
 聴覚障害
 情報保障
 ノートテイク

下中村 武 助教
 九州大学 基幹教育院

鹿児島県出身です。2018年3月に兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科を修了し、博士(学校教育学)を取得しました。その後、東京にある社会福祉法人聴覚障害者情報文化センター職員を経て、2019年4月に九州大学基幹教育院・学術研究員に着任し、2022年4月から基幹教育院・助教となりました。主な研究テーマは、授業における聴覚障害のある児童・生徒・学生への教育・支援のあり方です。教育・支援の中でも、情報保障(聞こえていないが得られているはずの情報)を提供するという考え方を柱にして、学習機会の保障のあり方について研究しています。最近では、これらの情報保障のうち、文字による支援(ノートテイク)に関連した実践を行っています。具体的には、小学校から大学の授業における遠隔情報保障の導入や、ノートテイクを担う学生(ノートテイク学生)の養成等に取り組んでいます。

聴覚障害のある児童・生徒・学生は、聴力レベルによって、聞き取れない、聞き取りにくいことが困難として挙げられます。特に、小学校から大学では、授業内容やクラス内の会話、グループワーク等の内容が把握しにくいことから、授業そのものに参加することが難しく、学習機会が十分に保障されていない場合があります。これらの状況に対して、授業方法の工夫や補聴援助システムの使用、授業内容を文字情報として提供するノートテイク等が重要となります。これらの方法も含めて、教育・支援のあり方について考える機会にしたいと思っています。

2023 **7.12** (水) 12:10 ~ 12:50
 12:10-12:15 ◆演者紹介
 12:15-12:40 ◆プレゼン
 12:40-12:50 ◆質疑応答
 オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/join/WN_RdxnucFT5ikj296_zP_JQ
 【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

脱炭素社会実現に向けた水素エネルギーの役割と課題

司会：銭 理 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



7 水素エネルギーの現状
 9 水素エネルギーの現状
 13 水素エネルギーの現状

Key Words
 水素エネルギー
 燃料電池 水電解
 高分子電解質

西原 正通 教授
 九州大学 水素エネルギー国際研究センター

熊本市出身。専門は高分子化学。2003年熊本大学大学院で工学の博士号を修了、2003年スイス、ジュネーブ大学博士研究員、2005年神奈川科学技術アカデミー研究員を経て、2009年から九州大学先端物質化学研究所で特任助教として研究を開始しました。2011年カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所助教、2016年次世代燃料電池産学連携研究センター准教授を経て、現職。この間に、社会人向けメディカルコースである東京女子医科大学バイオメディカルカリキュラム修了(2006年)、2021年に豊田中央研究所にて客員研究員として民間企業で燃料電池研究に従事しました。現在の研究テーマは、燃料電池、水電解セルなどの水素エネルギーデバイスの高性能化と高耐久化を、高分子材料の観点から解決することに取り組んでいます。

近年、地球温暖化の解決に向け、世界各国で脱炭素化の動きが加速しています。この大きな潮流の中で、水素エネルギーは発電、製造業、運輸など幅広い産業分野での脱炭素化を実現させるキーテクノロジーとして注目されています。本セミナーでは、この水素エネルギーがどのように脱炭素化に寄与するのか、またその課題はどこにあるのかについて解説します。また本セミナーでは、演者が近年取り組んでいる水素を燃料として電気を発電し、モーターで走行する燃料電池自動車について、その特長を解説し、今後の普及に向けた課題とその解決に向けた取り組みについても解説を行います。

2023 **7.26** (水) 12:10 ~ 12:50
 12:10-12:15 ◆演者紹介
 12:15-12:40 ◆プレゼン
 12:40-12:50 ◆質疑応答
 オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/join/WN_zuSpQ5SCSQeBpiWLM-mChW
 【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

知性の解放：自然知能と人工知能の新たな地平を探る

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



3 本邦の健康づくりの現状
 4 海外の健康づくりの現状
 8 高齢者の健康づくりの現状
 10 高齢者の健康づくりの現状
 16 高齢者の健康づくりの現状
 17 高齢者の健康づくりの現状

Key Words
 知性の解放
 人工知能 教育の改善
 紛争解決 協調拡張推論

ダニロ ヴァルガス ヴァスコンセロス 准教授
 九州大学 システム情報科学研究所 情報学部門

Daniilo Vasconcellos Vargas 先生は現在、九州大学の准教授、東京大学の客員研究員、そして Miraix (www.miraix.org) の CEO 兼創設者です。彼の研究関心は、人工知能(AI)、進化的計算、複雑な適応システム、また AI の視点や AI アプリケーションの学際的研究に及びます。研究の多くは、"Evolutionary Computation" (MIT プレス)、"IEEE Transactions on Evolutionary Computation" トランザクション、および "IEEE Transactions of Neural Networks and Learning Systems" などの権威あるジャーナルに掲載され、BBC ニュースでも報道されました。2022年の IEEE Transactions on Evolutionary Computation で優秀賞を受賞、IEEE 優秀学生賞、およびブラジル、ドイツ、日本で長年学術奨学金などの賞を受賞しています。コミュニティ活動に関しては、GECCO2018、WCCI2020、および有名なトップ AI カンファレンス IJCAI2020 でチュートリアルを発表しました。また、AI の多分野の視点に関するさまざまなワークショップの共同主催者および顧問委員でもあり、10件以上の招待講演を行っており、そのうちの1つは CVPR2019 のワークショップで行われました。現在、次の目的を達成することを目的としたインテリジェントシステム研究所を率いています。堅牢で適応性のある人工知能の新时代的構築において、日本の2つの最大の資金提供機関である JST と JSPS (JST ACT-I, JST ACT-I 加速フェーズ、JSPS 科研費若手を含む) によって資金提供/支援を受けています。詳細については、彼の研究室ページ (http://jis.inf.kyushu-u.ac.jp) と彼の会社 Web サイト (www.miraix.org) の両方でご覧いただけます。

知性は、生物学的であれ人工的であれ、社会の基礎的な柱として機能し、私たち人間を区別します。その重要性にもかかわらず、知能について理解し、推論することは、しばしば常識に反することがあります。本発表では、知能の複雑さを解明する旅に乗り出します。第1部では、最も精度の高い AI モデルでさえも、堅牢(ロバスト)性と適応性に欠けていることを掘り下げ、新しいパラダイムの必要性を訴えます。この問題の解決策として、堅牢(ロバスト)で適応性の高い AI アプローチを概説します。第2部では、教育の向上と推論能力の育成に焦点を当てます。対立・葛藤に対処し、協調的な拡張推論を促進することで、教育改善の道を切り開きます。最後に、私たちの取り組みと持続可能な開発目標(SDGs)との整合性を探り、将来の取り組みを垣間見ることが出来ます。